

# 研究紀要

《 第 3 9 号 》

令和元年度

秋田県立秋田西高等学校

## 巻頭言

### 「レベルアップを目指して」

校長 佐藤 和実

教員は質の維持に必要な知識や技術をアップデートさせるために教員免許状更新講習を受けなければなりません。この制度が始まって今年で10年になり、これで一回りしたことになります。更新講習の年でなくても必要な研修を受けるのは教員の義務でもあり、権利でもあります。免許が必要な他の職業でも更新制となっているのでしょうか。

医療の世界を見てみると、医師免許や看護師免許に更新制度があるとは聞きません。一度、国家試験に合格すれば終身でその資格で仕事ができます。しかし、実際は医療従事者が自分の専門分野で生き残っていくためには結構苦労があるようです。医師の場合、自分の専門分野の学会で、登録医、認定医、専門医、指導医とレベルに応じた資格があります。所属する学会によってシステムは異なるようですが、資格を取るには研修を受け、学会に出て、認定試験を受ける必要があります。実技試験を伴うものさえあるようです。さらに期限があって更新が必要になる場合もあるようです。例えば、日本消化器外科学会による専門医資格は5年毎の更新が必要で、そのためには一定の手術数と研修の受講、学会への参加が必要とあります。私の知り合いの医師は学会出席のポイントを得るために秋田から福岡まで日帰りを出かけていました。上位の資格取得が、自分の知識技術の向上のためになるのはもちろんのことですが、勤務先の異動や開業のときに役立つこともあるようです。これは医師に限ったことではなく、歯科医や看護師、放射線技師など医療従事者ならどの職種にも当てはまります。自分の行きつけの医院のHPにある医師紹介を見てみてください。持っている資格を載せているはずですが、自分が患者だった場合、医者を選べるなら専門医、さらには指導医のレベルの知識と技術を持った医者にかかりたいと思うのは当然です。

教員の場合、そうした上位資格のようなものはないわけですが、求められる知識・技能は自分の専門教科についてだけでなく、生徒対応や分掌業務など多くの分野にわたります。そしてそれを身に付ける機会、教育センター等が行う研修もありますが、多くは日々の教材研究や自主的に参加する研修会など、一人ひとりの意欲に基づく地道な実践になると思います。自分の専門を広げ、深めること、苦手分野を補うこと。生徒により望まれる教員を目指して、レベルアップしていきたいものです。

# 目 次

巻 頭 言 「 レベルアップを目指して 」 …… 校 長 佐 藤 和 実

## 目 次

### 研 究

令和元年度 授業改善の取り組み ……	1
校内授業研究会 ……	1 3
学習指導案・授業研究会記録	
○英 語 科 …… 教諭 石 川 真 人 ……	1 4
○保健体育科 …… 教諭 小 松 和 幸 ……	1 9

### 研 修

教職 5 年経験者研修 (6 年目) ……	教諭 渡 部 亮 太 ……	2 2
B 講座研修 ……	教諭 渡 部 亮 太 ……	2 8
C 講座研修 ……	教諭 工 藤 裕 文 ……	2 9
進路指導研修		
高大接続改革に関する研修 ……	教諭 細 井 泰 子 ……	3 2
	教諭 伊 藤 真 子	
新入試制度に関する研修 ……	教諭 金 岡 和 恵 ……	3 4
	教諭 伊 藤 文 人	

### 編集後記

# 研 究

# 令和元年度 授業改善の取り組み

## 1. はじめに

授業研究や授業改善を学校全体の取り組みにしていくための工夫を模索して今年度で3年目になった。今年度の授業改善は次のようなPDCAサイクルで行われた。

4月…校長による教育目標・教育方針・重点事項の提示（4/2職員会議）

### 【教育目標】

学校生活を通じて人格の完成と真理の探究を目指し、社会の変化に対応できる有為な人材を育成する。

### 【教育方針】

**豊かな心** 強い意志力を持ち、思いやりのある心豊かな人間の育成に努める。

**調和の姿** 品性に優れ、心身共に健康で調和のとれた人間形成に努める。

**創造の道** 自ら学ぶ力を培い、創造的な知性の涵養に努める。

### 【重点事項】

#### (1) 工夫のある授業と学力の向上

- ①「授業第一」の認識のもとに1時間1時間の授業を大切にし、生徒の主体的な学びを引き出す。
- ②生徒の学びの実態を的確に把握し、基礎学力の定着と同時に思考力を高める授業づくりを目指す。
- ③探究活動を通して課題発見と問題解決のできる生徒を育成する。

#### (2) 規範意識の醸成と豊かな人間性の育成

- ①他者への思いやりや感謝する心を持った、コミュニケーション能力の高い生徒を育成する。
- ②自己有用感を高め、自分も相手も大切にすよりよい人間関係づくりを図る。

#### (3) キャリア教育に根ざした進路意識の向上

- ①学校教育全体を通して、主体性を持って人生を切り拓くたくましい生徒を育成する。
- ②進路意識を明確にし、その実現に向かって努力できるように、生徒一人一人の第1志望実現を支援する。

#### (4) 生徒理解の推進

- ①こまめな声掛けなどを通して生徒の変化に敏感になり、必要な早期対応を心がける。

5月…校内委員会（教頭・教務主任・進路指導主事・1年部学年主任（総合的探究推進委員会委員長）・研修主任）による今年度の『授業改善テーマ』の設定と職員会議での呼びかけ

6月…第1回授業アンケートの実施と分析結果の提示

7月…第1回授業改善参観期間（7/11校内研究授業）

10月…第2回授業改善参観期間（～11月）

11月…第2回授業アンケートの実施（11/8校内研究授業）

12月…授業アンケートの分析結果の提示

## 2. 授業改善に向けての検討と実施

今年度、本校は探究活動実践モデル校（～2年度）に指定された。そこで、一昨年度、授業改善に向けて新たに設置された校内委員会に、今年度は、一年部学年主任も加わって授業改善の共通テーマを検討した。「生徒の主体的な学び」「基礎学力の定着」「思考力」「コミュニケーション能力」「人間関係づくり」といった今年度の重点事項や探究活動モデル校であることを踏まえ、今年度も昨年度と同じ「探究的な学びの姿勢を育てる ～基礎学力の定着、深い思考力、表現力の育成～」というテーマのもと、基礎学力、思考力、表現力を意識した授業の工夫と学力の向上を通じて学びの充実を図ることとし、次のことを各分掌と連携して実施していくこととした。

教務：授業の規律を守ると共に、考査問題の改善を図り、3つの力を適切に評価できるようにする。また、カリキュラムにフィードバックする。

進路：これからの進路実現に必要な学びの姿勢を身につけさせる。新しい入試に対応できる指導法の工夫について分析・改善を行い、学力向上につなげる。

研修：授業アンケートの結果を踏まえ、授業参観、授業の自己評価を行い授業改善にフィードバックする。

授業の際にはその時間が「基礎学力の定着」を図るのか、「深い思考力の獲得」を目指すのか、あるいは「自分の考えを伝える表現力」をつけさせる時間なのかを意識させ、生徒が「何」を「どう」学び、「何」が身についたのかを確認できる授業の構成・工夫をめざすこととした。今年度から1、2年生はスタディサプリの導入も始まった。そこで、家庭での学習成果の定着について意識させることが昨年度との違いである。授業改善のポイントは次の5点に集約される。

- ①授業のねらい・目標が示されているか。
- ②基本的な知識や技術を身につけさせているか。
- ③生徒が学んだ知識を使って自分で考えたり、深めたりする時間や工夫があるか。
- ④生徒が考えを記述したり、伝えあったりする機会があるか。
- ⑤授業の振り返りがなされているか。

これらの事項をまとめた資料を作成し、年間を通して全職員が共通理解のもとで授業改善を進めていけるように6月の職員会議で提示した（資料Ⅰ）。授業アンケートは、質問項目を授業改善のポイントに沿うものとし、また、授業改善の成果を適切に比較・検討するためにその様式は1回目と2回目を同じものとした（資料Ⅱ）。

また、「授業改善参観期間」は「自己評価表」（資料Ⅲ）の記録を通じて自身の授業を毎時間振り返りながら、専門外の教科を含めた2回以上の授業参観を行ってもらった。自己評価についても授業改善ポイントに沿って行い、その時間に意識したことを簡単に記録してもらったようにした。

**（資料Ⅰ）全体計画（P5～6）**

**（資料Ⅱ）授業アンケート（P7）**

**（資料Ⅲ）授業改善参観期間の自己評価表（P8）**

## 3. 授業改善・参観期間における授業アンケート結果

授業アンケートの結果を授業改善に活かせるよう、第1回目のアンケートの集計結果について、授業改善参観期間の前に職員会議で提示できるようにした（資料Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ）。

**（資料Ⅳ）第1回授業アンケート（Ⅰ～Ⅴ）の結果（掲載は1年生）（P9）**

**（資料Ⅴ）第1回授業アンケート（Ⅵ自由記述）の一部（P10）**

**（資料Ⅵ）第2回授業アンケート（Ⅵ自由記述）の一部（P11）**

#### 4. 分析と今後に向けて

##### ▽授業アンケートについて

6月と11月に実施した授業アンケートの集計結果(資料Ⅶ)から、学年や項目にばらつきがあるものの、全体的に6月に比べて11月では数値は下降している(昨年度は上昇)。今年度は、「生徒が考えを記述したり、伝えあったりする機会がある」の評価ですべての学年が上昇した昨年度のようにはいかなかった。昨年度は、授業アンケートや授業改善参観期間に加え、校内研修会や指導主事学校訪問、言語活動指導者養成研修といったさまざまな機会によって職員の授業改善に向けた意識や生徒の学ぶ意識がいつになく高まったと思われる。2回目の評価がもっとも高かったのは3年生で、1回目と比較して下げ幅もそう大きいわけではなく、特に1、2年生に比べると、Ⅱ「生徒が基本的な知識や技術が身につけていることを実感できる」の評価の高さが際立っている。受験が近づき、授業と家庭学習が有機的に結びついていることをうかがわせるが、1回目でも数値は高く、ここに授業改善と学力の一定の相関を見ることができるかもしれない。翻って、1年生のⅡの下げ幅は極めて大きい(2年生の下げ幅も決して小さいとは言えない)。これは、我々の授業改善と同時に生徒の学ぶ姿勢の改善の必要性を喚起していると思われる。家庭学習がおろそかになり、授業を受けっぱなしにしている生徒や、授業についていけなくなっている生徒が後期になって増えたのかもしれない。また、すべての学年で、Ⅲ「生徒が学んだ知識を使って自分で考えたり、深めたりする時間や工夫がある」Ⅳ「生徒が考えを記述したり、伝えあったりする機会がある」の評価が下がった。協働的な学びについての評価は6月の調査ではすべての学年で高く、また、協働的な授業ほど生徒の自由記述で評価される傾向にある。生徒が授業の中で自ら考えたりそれを深めたり、伝えあったりすることは、自己肯定感や自己有用感の育成にもつながると考えられることから、一過性にすることなく年間を通した授業計画に組み込む工夫と努力が必要である。こうした事情をくんだ校長先生から協働的な学習を促す教具(「まなボード」「スクールタイマー」)を紹介していただいた。試行錯誤しながら授業での効果的な活用方法を探っていければと思う。

##### **(資料Ⅶ) 6月と11月の授業アンケート結果の集計(P12)**

##### ▽学校評価職員アンケートから

昨年度同様に、「授業改善参観期間の互見授業や研究授業、校外研修を通じて、全体で授業改善に取り組めた」「職員がそれぞれ様々に(授業改善に)取り組んでいた」など一定の評価を見た。一方「生徒を育成するための職員の研鑽時間の確保は大きな課題」「研究授業は時間割や学校行事に影響を与え、かなりのエネルギーが必要とされるものでありもう少し精選すべき」という意見が出された昨年度とは対照的に、「授業改善参観期間の姿勢が消極的」「授業改善(の取り組み)を継続し、発表するような機会がもっとあってもよい」「授業にはそれぞれ工夫して取り組んでいるが学力向上には必ずしも結びついていない」(多数)という意見もあった。昨年度は、言語活動指導者養成研修や指導主事学校訪問などで、延べ12名が授業実践を行う慌ただしい一年であった。40周年行事が続いた今年度もやはり慌ただしく、校外研修に足を延ばすような余裕はなかったと思われる一方で、校内研修には物足りなさを感じた職員もいたのかもしれない。各種学校行事などとの調整を図りながら授業改善の取り組みのためのスケジュールリングを考える必要がある。そして何より、授業改善の取り組みが学力の向上に結びついていないのではないかという多くの職員の実感が浮き彫りになったアンケート結果ではなかったかと思う。

## 5. まとめ

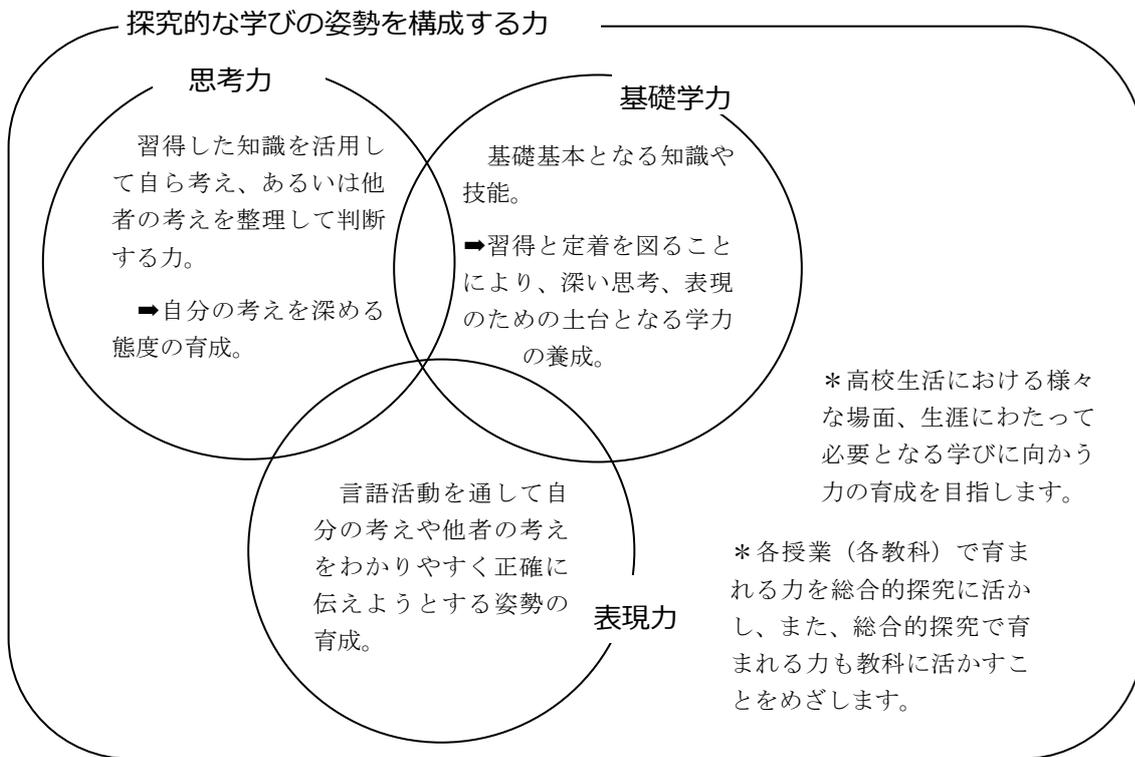
大学入試改革や新学習指導要領を見すえながらの本校授業改善の取り組みは、まだ始まったばかりであり、その方策については引き続き検討や見直しが必要であるということは上述の通りである。

来年度の授業改善テーマがどうなるかはわからないが、新学習指導要領の掲げる学力の要素としての知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的な学びの姿勢等の育成は今後も本校の課題となるであろう。そのためには、協働的な学びの場面を今よりも増やしていく等授業改善の工夫が必要なのは言うまでもない。プロジェクターやスクリーン等の教材・教具が他校に比べて少ないのではないかという声や、授業参観率もまだ十分ではないという声もある。そこで、まずは次年度に向けて、授業のための環境整備と全員参加型の授業研究の実施を検討し次年度の授業改善につなげたいと考えている。

令和元年度 秋田西高等学校 授業改善への取り組み

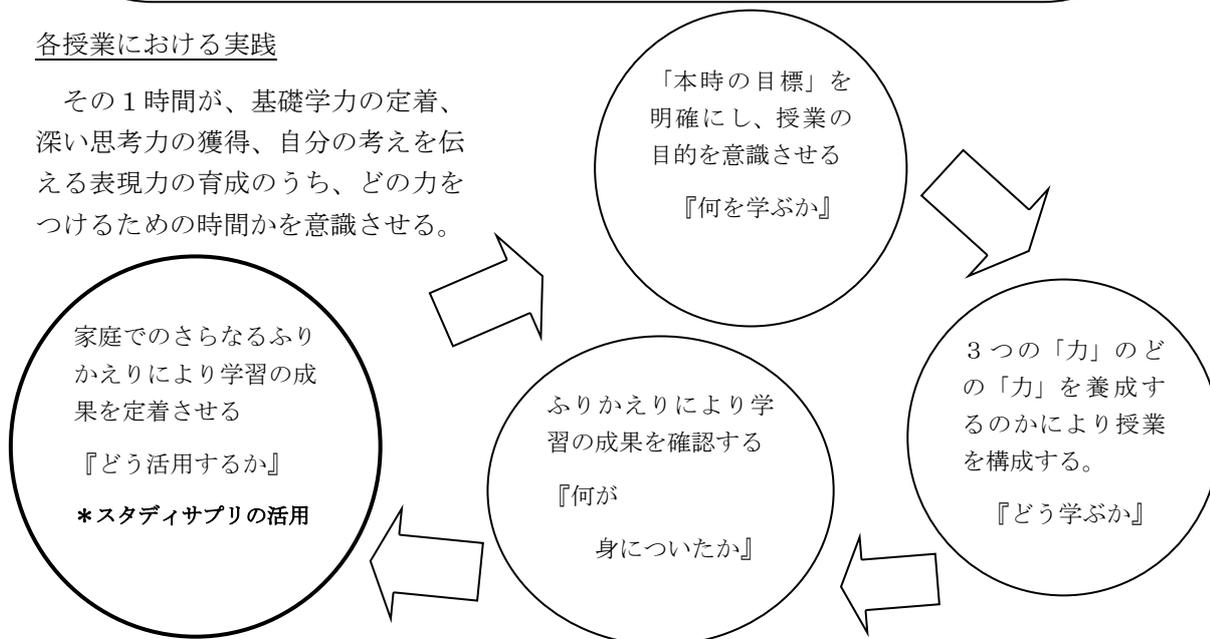
**授業改善によって目指すもの「探究的な学びの姿勢を育てる」**

「令和元年度教育計画」に基づき、基礎学力、思考力、表現力の 3 本柱で授業を構成し、学びの充実をはかります。



各授業における実践

その 1 時間が、基礎学力の定着、深い思考力の獲得、自分の考えを伝える表現力の育成のうち、どの力をつけるための時間を意識させる。



【進路指導部】 これからの進路実現に必要な主体的な学びの姿勢を身につけさせる。新しい入試に対応できる指導法の工夫について分析・改善を行い、学力向上につなげる。

【教務部】 授業の規律を守ると共に、考査問題の改善を図り、3つの力を適切に評価できるようにする。また、カリキュラムにフィードバックする。

【研修部】 授業アンケートの結果を踏まえ、授業参観、授業の自己評価を行い授業改善にフィードバックする。

今後の日程

6月 5日 (水)	第1回授業アンケート		P
6月26日 (水)	職員会議にてアンケート 分析結果の提示		P C
		(中間考査)	
7月 2日 (火)	授業改善参観期間	授業参観	D
～7月12日 (金)		授業改善自己評価	
		(到達度テスト)	C
		(期末考査)	C
10月28日 (月)	授業改善参観期間	授業参観	D
～11月8日 (金)		授業改善自己評価	
11月20日 (水)	第2回授業アンケート		C
		(1年総探 ポスターセッション 予定)	C
		(2年総学 中間発表 予定)	C
		(中間考査)	
12月20日 (金)	職員会議にてアンケート 分析結果の提示		C
1月20日 (月) 以降		センター試験分析	C
2月		進路分析会 (1, 2年)	C、A
		(期末考査)	
3月		年間指導計画の振り返り 次年度指導計画への反映	C、A

※ 対象期間中は「自己評価表」の記録をし、期間終了後教頭まで提出をお願いします。

※ 授業参観は各期間2時間以上の参観をお願いします(2時間のうち、所属学年の他教科、研究授業など自分の教科以外を1時間含めるようお願いいたします。また、参観した授業に関する「授業参観記録シート」の提出をお願いします。

※ 年間指導計画を年度末に提出される際、反省の欄に、考査問題に関する自己評価を必ず入れてください。

★校内研究授業

7月11日(木) 3・4校時…石川真人 先生 (英語 兼フォローアップ研修)

11月 8日(金)…小松和幸先生 (保健体育科)

★連携協力 (総合教育センター・金足農業高校・本校)

秋田県教育研究発表会(センター、2月)、研究授業 (金農、6/10～21、10/29～11/8) が予定されています。連携以外の県内中学校・高校も含め、授業研究会への積極的な参加をよろしくお願ひします。

★令和元年度高教研英語部会全県大会公開授業 (本校)

11月26日(木) 3・4校時…金岡和恵先生 (英語科) \* 予定

# 授 業 ア ン ケ ー ト

秋田県立秋田西高等学校  
実施 令和元年6月5日(水)

( ) 年 ( ) 組 ( 男 ・ 女 )

このアンケートは、よりよい授業を行うためのものです。  
4月からの授業について、次の条件を読んで、右のマークシートに回答の☑を入れて下さい。

- I 授業のねらい、目標がはっきりと示されている。
- ① おおむねすべての授業で示されている。
  - ② いくつかの教科(科目)で示されている。
  - ③ ほとんどの授業で示されていない。
- 上の質問で②と答えた人に聞きます。(①と③の方は不要です)  
目標が示されている教科(科目)すべてに☑をいれてください。
- II 生徒が基本的な知識や技術が身についていることを実感できる。
- ① おおむねすべての授業で実感できる。
  - ② いくつかの教科(科目)で実感できる。
  - ③ ほとんどの授業で実感できない。
- 上の質問で②と答えた人に聞きます。(①と③の方は不要です)  
基本的な知識や技術が身についていると実感できる教科(科目)すべてに☑をいれてください。
- III 生徒が学んだ知識を使って自分の考えをより深める時間や工夫がある。
- ① おおむねすべての授業で行われている。
  - ② いくつかの教科(科目)で行われている。
  - ③ ほとんどの授業で行われていない。
- 上の質問で②と答えた人に聞きます。(①と③の方は不要です)  
生徒が自分の考えを深める時間や工夫がある教科(科目)すべてに☑をいれてください。
- IV 生徒が考えを記述したり、伝えあったりする機会がある。
- ① おおむねすべての授業で行われている。
  - ② いくつかの教科(科目)で行われている。
  - ③ ほとんどの授業で行われていない。
- 上の質問で②と答えた人に聞きます。(①と③の方は不要です)  
生徒が考えを記述したり伝えあったりしている教科(科目)すべてに☑をいれてください。
- V 授業内容の振り返りが行われている。
- ① おおむねすべての授業で行われている。
  - ② いくつかの教科(科目)で行われている。
  - ③ ほとんどの授業で行われていない。
- 上の質問で②と答えた人に聞きます。(①と③の方は不要です)  
授業内容の振り返りが行われている教科(科目)すべてに☑をいれてください。
- VI I～Vの質問に最も当てはまっていて、あなたが良いと思う教科(科目)1つに☑を入れて下さい。  
また、そう思う理由や良いと思う点を記述してください。

(資料Ⅲ) 授業改善参観期間の自己評価表

令和元年度 授業改善・参観期間の自己評価表

名簿番号		氏名		教科	
------	--	----	--	----	--

【今年度の授業改善のポイント】

- ① 授業のねらい・目標が示されているか。
- ② 基本的知識や技術を身につけさせているか
- ③ 生徒が学んだ知識を使って自分で考えたり、深めたりする時間や工夫があるか
- ④ 生徒が考えを記述したり伝えあったりする機会があるか
- ⑤ 授業の振り返りがなされているか

授業アンケートの結果を踏まえ、期間中（8日間）、毎日一時間分の自己評価を行って下さい。

※10/28（月）～11/8（金） ➡11/11（月）教頭先生へ提出

実施日	校時	学年・組	科目	自己評価 (A, B, C)			②と⑤のうちより意識したものを 記入	意識したことについて
				①	③	④		

(資料Ⅳ) 第1回授業アンケート(I~V)の結果(掲載は1年生)

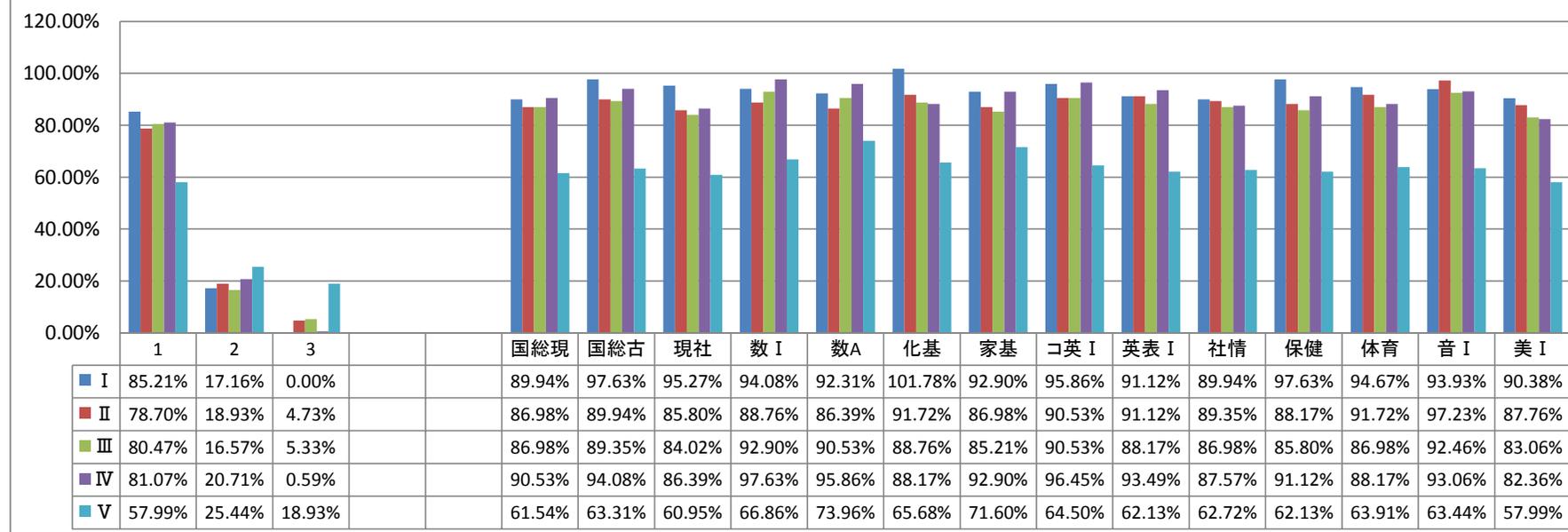
1学年全体

	1	2	3		国総現	国総古	現社	数I	数A	化基	家基	コ英I	英表I	社情	保健	体育	音I	美I
I	144	29	0	173	8	21	17	15	12	28	13	18	10	8	21	16	8	4
II	133	32	8	173	14	19	12	17	13	22	14	20	21	18	16	22	17	7
III	136	28	9	173	11	15	6	21	17	14	8	17	13	11	9	11	11	2
IV	137	35	1	173	16	22	9	28	25	12	20	26	21	11	17	12	11	1
V	98	43	32	173	6	9	5	15	27	13	23	11	7	8	7	10	5	0

回答数 169 回答率 96.6%

	1	2	3		国総現	国総古	現社	数I	数A	化基	家基	コ英I	英表I	社情	保健	体育	音I	美I
I	85.21%	17.16%	0.00%		89.94%	97.63%	95.27%	94.08%	92.31%	101.78%	92.90%	95.86%	91.12%	89.94%	97.63%	94.67%	93.93%	90.38%
II	78.70%	18.93%	4.73%		86.98%	89.94%	85.80%	88.76%	86.39%	91.72%	86.98%	90.53%	91.12%	89.35%	88.17%	91.72%	97.23%	87.76%
III	80.47%	16.57%	5.33%		86.98%	89.35%	84.02%	92.90%	90.53%	88.76%	85.21%	90.53%	88.17%	86.98%	85.80%	86.98%	92.46%	83.06%
IV	81.07%	20.71%	0.59%		90.53%	94.08%	86.39%	97.63%	95.86%	88.17%	92.90%	96.45%	93.49%	87.57%	91.12%	88.17%	93.06%	82.36%
V	57.99%	25.44%	18.93%		61.54%	63.31%	60.95%	66.86%	73.96%	65.68%	71.60%	64.50%	62.13%	62.72%	62.13%	63.91%	63.44%	57.99%

集計グラフ



(資料V) 第1回授業アンケート (VI自由記述) の一部

学年	教科(科目)	クラス	自由記述
1年	コ英 I	A	全員が積極的に取り組んでいると感じたから。
		A	単語の復習や読みの練習など、やるのが計画的に進むのでとても分かりやすい。
		B	生徒同士の話し合いや、単語を1つ1つ丁寧に教えてくれるので、分かりやすい。生徒どおし話し合いで、周りの席の人とコミュニケーションをとれるようになった。
		E	授業の初めに今日やることや次の授業までにやってくるのが黒板に書かれていてわかりやすいし、授業の流れが同じでついていけるから。
	数 I	A	やること一つ一つの順番が決まっているから。
B	難しい問題を解き自分の成長を実感できて楽しい時間を過ごすことができるから。		
E	一つずつ丁寧に教えてくれる先生の授業のおかげで確実に数学力が身につけていることが実感できるからです。時々、難問に挑戦したりする時間もあるって、受けていて楽しい授業です。嫌いだった数学も好きになりました。		
E	近くの席の人と意見交換したり、基本問題の後に発展問題を解いたりして、分かりやすいから。		
化基	E	前回の内容の重点を黒板に書いたり、話したりしているので、とても分かりやすいと思う。	
	D	覚えづらいところを覚えやすいように工夫して教えていただけてすごくわかりやすいです。	
数A	B	最初に何でやるかをしっかりと説明して発表の機会も設けている。周りのことと結び付けて授業を進められる。	
	E	先生の教え方が分かりやすい。復習を入れながらなので、分からない所もまた確認できる。授業のスピードがちょうどいい	
	B	授業の始めに前回やったことの復習をして、グループや隣の席の人と意見を交換し合っ問題で解くのでわかりやすいから。	
英表	A	問題で皆が理解していない点があると、繰り返し説明してくれる。復習の問題もあるから助かっている。	
	B	グループ活動が多くて、周りの人から教えてもらえるから。また、先生が見て回っていて、分からないときにすぐ聞けるから。	
	C	内容が理解でき応用問題はグループで話し合っ解いているから。	
	C	わかりやすく教えてくれるし、ポイントをまとめてくれるので板書ししやすい。ペアで会話するコミュニケーションも行われている。	
	C	毎時間目標を示していたり、生徒同士が話し合う機会が多かったり、質問に当てはまり、授業が楽しくわかりやすい。	
D	前回の授業の復習も始めにしてくれるし、目標を示されているからわかりやすい。		
E	先生がその日の生徒の様子から臨機応変に対応してくれて、とても良いと思います。4月の頃から、今にかけて、授業の仕方を変えてくれて、より内容が身につくようにしてくれて学びやすくなりました。		
2年	現代文	A	授業の始めに目標がしっかり書かれていて、授業も分かりやすいし、グループ活動もあっていいと思うから。
		B	グループで話しあう時間があったり、ノートにしっかりまとめられる 復習であてられても、ノートを見ればしっかり答えられ、自信になる
		C	授業のはじめにしっかりと前の復習ができる。
	E	目標がはっきりしていて、授業が分かりやすく振り返りや復習もしっかりできるから。	
	古典	A	授業の最初に小テストを行ったりするから、復習をしっかりしないといけないと思える。とても分かりやすいと思います。
B	復習しないと解かない確認テストなどにより、自分でしっかり復習するというサイクルができあがったから		
B	毎回テストで確認できるから身につく。百人一首を使っているところがおもしろい。		
D	プリントやノートなどを活用して、分かりやすくなるように学習するようにされているから。		
数学Ⅱ	C	生徒同士で問題を解いて自分の考えを伝えたり授業での知識が身についていると思ったから。	
	D	前回の復習から始まるのでわかりやすい。ポイントを丁寧に教えてくれる。	
	D	丁寧な解説がありわかりやすい。授業内で理解できることが多いので復習が楽。	
	D	基礎など、しっかり覚えてほしい、理解してほしいところは生徒が理解するまで何回も繰り返してくれる。授業の初めに前回までの大事などところの復習をしてくれる。授業が楽しい。	
数学B	A	授業のはじめに目標を書き、難しい問題などは周りの人などとの相談の時間を設け、発表する機会もあり、最後には振り返りシートを書く時間があり、とてもいいと思う。	
	A	最もよく覚えているし、振り返りもプリントで行っていて、相手と考えを確認する時間があるから。知識も深められているから。	
	C	楽しくわかりやすい授業をしてくれるから。	
	D	振り返りカードや、グループで考える時間があるから。	
日本史B	B	内容をまとめる時間があり、定着率が高い	
	B	分かりやすい	
	D	生徒どうして話し合う時間を多くとっているから	
	E	友達と考えを共有できる時間が多くあり、メリハリのついた授業になっている。	
3年	古典	B	以前やった基本的な所もくり返し何度も何度も教えてくれるし、難しいのもやったりととても力がついていると分かる。説明がわかりやすい。
		B	授業の目標がはっきりしているし、まわりの人との意見交流も多いから。
	D	文法的な問題だけでなく、本文の内容についてどう思うかなど考えを深められるから	
	D	1つの疑問に対して深く教えてくれたり、そこから関連しているいろいろ教えたり、生徒のことを置いていかないから	
	現代文	B	全部あてはまっているから。
C	毎時間に、ほぼ全員に発表する機会があって授業に集中できる点。		
D	前にやったところの復習を授業の中に入れていたり、わかりやすいから		
E	グループ学習のバランスがちょうど良く、理解しやすくなるように振り返りもきちんとしているから		
コ英Ⅲ	B	口に出したり書いたり、感覚的に英語が身についているような気がする。	
	C	長文をもとに、単語・文法・速読力など一度の授業で力をつけることができるから。最後のまとめで力がついたことを実感できるから。	
	C	長文読解などを授業で行えるのがテストに向かった勉強になるのでありがたいです。	
E	前の時間の復習を必ずするし、ペア学習が多くあり、1日1回くらい発表の機会があるから		
日本史B	A	楽しい話題や、生徒に積極的に話しかけてくれるから	
	A	授業ごとに目標がはっきりしていて、自分たちで考える時間がたくさんあるから	
	A	目標が示されていて、生徒同士で話す時間も、最後に小テストで確認ができているから	
C	授業のねらいや目標が提示されてから確認テストまでの授業の流れがしっかりとある。		
英表Ⅱ	A	わかりやすい、やりやすい	
	D	授業の内容がわかりやすく、無駄がないから	
	E	自分たちで考えたり、記述したりする機会が多く、授業の復習もよく行われているから。	
E	英文の発音や発展した文法などが学べるから		

(資料VI) 第2回授業アンケート (VI自由記述) の一部

学年	教科(科目)	クラス	自由記述
1年	コ英 I	A	目標も示されており、発表する機会もあり、全員が声を出して授業に参加できるから。
		B	話し合いをする機会があったり、英語で自分の考えを伝えたりすることを大切にしているから。
		B	授業が分かりやすく、生徒のリズムを大切に授業をしているから。
		E	しっかり授業の方針、振り返りがあるから。
	国総現	A	授業のねらいにそって学習が進んでいるし、一人一人の発表場面があるので、知識を生かしていると思うから。
A	生徒が発表する場が多く、みんながしっかりと自分の意見を持ち、振り返りが出来ていると思います。		
B	めあてがはっきり示されていて、短時間ではなく、ある程度の時間を使い、前時間の振り返り、確認等がなされているから。		
B	話し合いや、考えを共有する機会が多くて内容深い授業だと思う。		
化学基礎	C	目標設定と達成のための演習や解説がある。	
	C	目標が明確。授業の中で理解できる。	
D	授業が丁寧でわかりやすいから		
E	黒板がとてもきれいで勉強の意欲が上がるから。説明がとてもいいのでわかりやすいから。		
数学 I	A	授業で何をやるか最初にはっきりさせて、新しい数学の知識を増やすことができるから。	
	C	この質問に当てはまる教科。 やりがいを感じる。	
D	目標が与えられていて、考えるときは個人からグループの順がよい。黒板に自分の考えを書いて説明するのは力になっている。		
E	クラスの出来具合によって進むペースが変わるので、確実に身につけていくのが分かって楽しい。		
体育	D	成長を感じることができ、楽しいから	
	D	しっかりと目標が毎時間あって、細かい所までくわしく説明してくれるから	
E	授業を重ねるごとにうまくなっていると実感できるし、生徒同士で教え合ったりできるから。		
E	明確な目標を立て、それに向かって授業を進めているから。		
2年	数 II	A	前回の復習から入ったり、わからないところは友達や先生などに聞いて理解できる時間があるから。この1時間でやったことを簡単にまとめて話してくれる所がわかりやすい。
		D	授業にも向かいやすく、今何を学んでいるかをすぐに分かり、今後にも繋がると考えられる。
	D	他の教科に比べて授業が分かりやすく、生徒一人ひとりが理解できるようにする工夫・努力がみられるから。	
	D	ノートを見返した時に復習しやすい。	
	現代文	A	話し合いの時間や振り返りの時間を設け、わかりやすく理解できるまで教えてくださっている点。
B		本文の内容を理解していくうちに言葉の意味なども理解できているから。	
B	授業だけでほぼ内容を理解できるから。		
C	目標をしっかりと確認しているし、前の時間の復習、グループでの発表の機会が与えられているから。		
古典	B	前の時間に学んだことを次の時間に小テストして復習できる点や、生徒にあてて先生だけで授業をしないという点。	
	B	平等に発表させる機会を設けている。ペアやグループで話し合う機会も多い。振り返りや復習問題も設けられていて、どのくらいの力が身に付いたかを実感できる。	
C	模試の点数が上がった。授業が楽しい。力が身に付いているのがわかる。		
E	小テストは多いけれど、大事なところがよく分かるから。		
数B	A	目標がはっきりしていて、自分たちが授業を振り返る時間もあるから。	
	B	わかりやすい。生徒の態度が悪いときちゃんと注意してくれる。字がきれいで黒板が見やすい。	
B	自分の理解していることと理解していないことがはっきりとわかるから。		
D	課題(目標)が授業の始めに書かれていて、授業後振り返りシートの記入がある。前回の授業の復習も行われる。		
体育	A	楽しく体を動かせるから。	
	A	先生の教え方や授業の進め方が良いと思った。	
B	みんな話し合いながらコミュニケーションをとりながら楽しんで授業が受けられるから。		
B	おもしろいし安全性もしっかりしているから。		
3年	古典	A	目標からしっかりと示されていて、自分の学習したことを発揮する場もしっかりある。
		A	私達が内容を理解できる工夫がされているから。
	C	重要なことを繰り返し教えてくれ、知識が身につけてきたと実感し、やる気が上がりやすいから。	
	C	自分で考える時間を十分にとった後、隣の人と話し合っ意見をもとめる。授業の流れがいいと思う。	
	コ英 III	B	ボキャブラリーが増える授業になっている。ペアワーク中心だが、良い意味でプレッシャーがなく取り組みやすい。
B		入試にもテストにもつながる授業で全部の質問内容を満たしているから。	
C	生徒同士のペアワークを毎授業行っており、協力する時間が増えて集中して取り組める。暗唱や小テストもある。		
E	発表しやすいし、間違っても大丈夫な空気があって緊張せずに授業に取り組める。		
生物	D	目標が毎時間必ず提示されている。グループワークがある。確認問題をして、理解を深めることができる。	
	D	教科書を読んで空欄を埋めたり、グループで作業したり、問題を解いたり、動画を見たりするので他の授業ではできないことが多いから。	
D	復習してから授業に入り、1つのプリントが終わったら確認問題をしているから。		
D	授業がわかりやすくて楽しいです。また、授業前に前の時間の復習も助かります。		
英表 II	D	毎授業、文法や語句の意味が身につくと実感できるから。	
	D	話し合っ答えを導く時間がある。書くときと聞くときが分かれています。	
E	授業がスムーズで生徒の意見を取り入れている場面が多い。		
E	目標や振り返りがしっかりあるから、生徒が考えを発表する場もあるから。		
現代文	A	その授業で何を理解できるようにするのが毎時間書かれているから。	
	A	最初に目標もあって、発表の場もあり、意見を交流する場もあるのでよいと思う。	
D	グループになって話し合い、全員で意見を深め、内容を理解していけるから。また教科書以外にもいろいろ教えてくれるから。		
D	最初から最後までしっかりとしているから。		

\*各学年とも上位5科目を記載

(資料Ⅶ) 6月と11月の授業アンケート結果の集計

授業改善に向けて ～授業アンケートの集計より～

- \*質問項目
- I 授業のねらい、目標がはっきりと示されている
  - II 生徒が基本的な知識や技術が身につけていることを実感できる
  - III 生徒が学んだ知識を使って自分の考えをより深める時間や工夫がある
  - IV 生徒が考えを記述したり、伝えあったりする機会がある
  - V 授業内容の振り返りが行われている
  - VI I～Vの質問に最もあてはまっていて、良いと思う教科1つを選び理由を書く

【2019年度(第1回)】

1年  
回答数 169 回答率 96.6%

	1	2	3
I	85.2%	17.2%	0.0%
II	78.7%	18.9%	4.7%
III	80.5%	16.6%	5.3%
IV	81.1%	20.7%	0.6%
V	58.0%	25.4%	18.9%
	76.7%	19.8%	5.9%

2年  
回答数 172 回答率 98.9%

	1	2	3
I	79.1%	19.2%	1.7%
II	75.6%	21.5%	2.9%
III	80.2%	11.0%	8.7%
IV	79.7%	16.9%	2.9%
V	68.6%	19.2%	12.2%
	76.6%	17.6%	5.7%

3年  
回答数 165 回答率 95.9%

	1	2	3
I	77.0%	20.6%	2.4%
II	79.4%	15.8%	4.2%
III	83.6%	9.7%	6.7%
IV	84.2%	13.9%	1.8%
V	71.5%	10.9%	17.0%
	79.2%	14.2%	6.4%

【2019年度(第2回)】

1年  
回答数 172 回答率 98.3%

	1	2	3
I	72.2%	26.6%	3.0%
II	59.2%	37.3%	5.3%
III	74.6%	18.3%	8.9%
IV	77.5%	20.1%	4.1%
V	65.7%	19.5%	16.0%
	69.8%	24.4%	7.5%

2年  
回答数 168 回答率 96.6%

	1	2	3
I	79.8%	16.1%	4.2%
II	67.3%	24.4%	8.3%
III	76.2%	12.5%	11.3%
IV	76.8%	19.0%	4.2%
V	70.2%	17.3%	12.5%
	74.0%	17.9%	8.1%

3年  
回答数 158 回答率 91.9%

	1	2	3
I	79.1%	17.7%	3.2%
II	79.7%	15.8%	4.4%
III	77.8%	12.7%	9.5%
IV	76.6%	17.1%	6.3%
V	65.8%	13.3%	20.3%
	75.8%	15.3%	8.7%

【2018年度(第1回)】

1年  
回答数 169 回答率 96.6%

	1	2	3
I	79.3%	19.5%	1.2%
II	67.5%	29.6%	3.0%
III	77.5%	17.2%	5.3%
IV	74.6%	23.1%	2.4%
V	59.2%	25.4%	15.4%
	71.6%	23.0%	5.4%

2年  
回答数 167 回答率 96.0%

	1	2	3
I	71.3%	26.3%	2.4%
II	63.5%	32.9%	3.0%
III	68.9%	24.6%	6.6%
IV	69.5%	27.5%	3.0%
V	59.3%	19.2%	21.6%
	66.5%	26.1%	7.3%

3年  
回答数 163 回答率 95.3%

	1	2	3
I	74.8%	19.6%	5.5%
II	67.5%	26.4%	6.1%
III	68.1%	18.4%	13.5%
IV	68.7%	25.2%	6.1%
V	58.3%	15.3%	26.4%
	67.5%	21.0%	11.5%

【2018年度(第2回)】

1年  
回答数 169 回答率 97%

	1	2	3
I	66.3%	27.8%	0.6%
II	56.2%	33.7%	4.7%
III	76.9%	14.8%	3.0%
IV	75.1%	17.2%	2.4%
V	56.8%	18.9%	18.9%
	66.3%		

2年  
回答数 172 回答率 99%

	1	2	3
I	74.4%	22.7%	2.9%
II	70.9%	24.4%	4.1%
III	73.3%	19.2%	7.0%
IV	79.7%	16.3%	3.5%
V	58.7%	19.8%	20.9%
	71.4%		

3年  
回答数 158 回答率 92%

	1	2	3
I	69.6%	27.8%	2.5%
II	67.1%	25.9%	6.3%
III	72.8%	20.9%	5.7%
IV	74.7%	22.8%	1.9%
V	58.9%	13.9%	26.6%
	68.6%		

\*トピック

・I～Vの各質問に対する①の回答(おむねすべての授業で行われている)率の平均が最も高いのは3年生(第1回目)。特に、IIの回答率の高さが群を抜く(1年→59.2%、2年→67.3%、3年→79.7%)。逆に、1年生は、今回の3年生と比べても、第1回アンケートと比べても大幅に下がっている。教員各自の授業の振り返り(見直し)とともに、授業についてこれなくなっている生徒や家庭での学習がおろそかになってきている生徒への対応等も考える必要あり?

・教科(科目)別でI～Vの各質問に対する①の回答(おむねすべての授業で行われている)率が高いのは、1年→音楽、化学基礎 2年→古典、現代文 3年→生物、古典

・第1回授業アンケートでは、II、Vの回答率が低かった。今回は、IIは3年生で微増、1、2年生で減少(1年生は大幅減)した。Vは1、2年生で増え(特に1年生は大幅増)、3年生で減少した。

・すべての学年でIII、IVの回答率が下がっている。生徒が考えを深めたり、そのための工夫や協働的な場面がまだ少ないと思われる。VIで選ばれる教科(科目)はIII、IVでも評価されている傾向に。

# 校内授業研究会

授業実施にあたり、次の項目についてまとめたものを記載する。

(1) 授業設定の目的、(2) 授業のポイント、(3) 授業を終えて

英語科 石川 真人

## ①授業設定の目的

外国語は音声の中に意味があり、音声を中心に4技能を身につけなければいけないと考えている。今日の授業の展開でも、耳から理解して、理解した部分を自分でも言えるようにさせることを意識した。

## ②授業のポイント

学んだことについて話し合い、英語で表現し、発表する。ある程度のインプットがないとアウトプットができないので、なるべく多くのインプットが出来るように普段から心がけている。今はまだ基本を教えている段階だが、その中で生徒には人前で話すことの大切さを理解させ、実践させられた。

## ③授業を終えて

授業ではなるべく生徒に英語を使う機会を作りたいと思っている。教師と生徒、生徒同士のフレンドリーな関係ができていて、リラックスできる雰囲気の中で授業が行われ、生徒はレッスンだけでなく、そういった雰囲気も楽しんでいただけたのではないと思う。

体育科 小松 和幸

## ①授業設定の目的

保健体育科では、「仲間と協力し、継続して努力することによって得られる達成感を味わえる授業」を作りたいと考えている。そこで、「学習規律の徹底」「頑張れる集団作り」を大切に授業に取り組んでいる。マット運動は、できる、できないがはっきりしている運動である。マット運動を通して、できなかつたことができるようになる達成感を感じられる授業を展開したい。主に回転系の技を中心に取り組み、得意な生徒の活躍の場の設定と、苦手な生徒が達成感を味わえるような活動の設定をしていきたい。初めから教師がポイントを示すのではなく、生徒同士で成功のためのポイントを見つけ出し、工夫して練習に取り組むようにし、不得意な生徒が成功できるような環境を整えたい。そのために得意不得意に配慮したグループ作り、得意な生徒の師範、視覚教材の使用を取り入れた授業を展開したいと考えている。

## ②授業のポイント

主に回転系の技を中心に取り組み、得意な生徒の活躍の場の設定と、苦手な生徒が達成感を味わえるような活動の設定をしていきたい。初めから教師がポイントを示すのではなく、生徒同士で成功のためのポイントを見つけ出し、工夫して練習に取り組むようにし、不得意な生徒が成功できるような環境を整えたい。そのために得意不得意に配慮したグループ作り、得意な生徒の師範、視覚教材の使用を取り入れた授業を展開したいと考えている。

## ③授業を終えて

授業については、苦手な生徒だけではなく、スモールステップ練習の学習カードを活用して、できる生徒への手立ても行い、できる生徒ができない生徒へアドバイスをするだけでなく、自己の課題を見つけ工夫して練習していました。グループ活動では課題を見つけ、互いに教え合いや学びあいがありました。また自分の演技後すぐにビデオで、自分の演技の振り返りができるようにすることで生徒の自発的な活動を促すことができました。生徒の感想やアンケートからみても、そういう意味ではこの授業はアクティブラーニングの視点からも自分としては納得のいく授業であったと感じています。

課題としては身体的な活動量がこの時間では足りなかつたので、単元全体を見てバランスをとる必要があると感じました。

体育科でも研究授業の研修や話し合いを持ちながら全員で体育科として取り組むことができ、また科内で研究協議を行いながら、それぞれの授業に各先生方が生かしているので今回の研究授業は良い機会であったと思います。

# 英語科「コミュニケーション英語Ⅰ」学習指導案

実施日時：令和元年7月11日（木）3校時

場 所：1年C組教室

対 象：1年C組

授 業 者：石川 真人

教 科 書：World Trek English Communication I  
(KIRIHARA)

## 1 単元名 Lesson 3 Soccer Uniforms say a lot about Countries

### 2 単元の目標

- (1) ワールドカップサッカー各国代表ユニフォームに込められた文化や歴史的背景に理解を深める。
- (2) ユニフォームの色が国旗や国のシンボルをもとにデザインされていることを読み取る。
- (3) 学んだことについて話し合い、英語で表現し、発表する。

### 3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

- リスニング活動に出てくる、ある程度の長さで複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、概要をつかむことができる。[Grade 5 listening]
- 教科書の本文を、キーワードを元に既習の表現を交えながら自分の言葉で他に伝えることができる。  
[Grade 4 speaking]

### 4 単元観

サッカーワールドカップで各国代表チームユニフォームに着目し、そのデザインからうかがえる各国の文化や歴史的背景などについて考え、理解する。本文中の表現を参考にしながら表現する活動にも挑戦する。

### 5 生徒観

英語の学習に対して意欲的な生徒が多く、活動には主体的に取り組んでいる。しかし、多くは英文読解が不正確であったり、英語で正確に表現できなかつたりと英語を苦手としている。しかし、積極的に英語を使おうとする姿勢があるので、ある程度ミスを許容しながら成功体験を増やしていきたい。

### 6 単元計画（総時間7時間）

- 1 時間目 ……Part 1(速読・概要把握)
- 2 時間目 ……Part 1(内容理解の定着・表現活動)
- 3 時間目 ……Part 2(速読・概要把握)
- 4 時間目 ……Part 2(内容理解の定着・表現活動)
- 5 時間目 ……Part 3(速読・概要把握)
- 6 時間目 ……Part 3(内容理解の定着・表現活動) 【本時 6/7】
- 7 時間目 ……まとめ

## 7 単元の評価規準

A コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての 知識・理解
各国代表チームユニフォームの意義を理解し、積極的に声を出して、学習内容を発表しようとしている。	本課の理解した内容についてキーワードを元に英語で発表、スピーチができる。	段落構成や単語、フレーズ等を意識しながら、物語の内容を理解することができる。	各国代表チームユニフォームから文化や歴史的背景を理解する

## 8 本時の学習

(1) 目標 各国代表チームユニフォームのデザインの意味を理解し、英語でスピーチをしよう。

### (2) 指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Warm-up</li> <li>・ 前時で学習した単語を復習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALT とのスマール・トークの聞き取りに集中させ、前時の内容確認とともに英語を話す雰囲気を作る。</li> <li>○ポイントを理解し、より正確に、大きな声で発音させる。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標を提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>各国代表チームユニフォームのデザインの意味を理解し、英語でスピーチしよう。</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の内容のサマリーを聞いて内容を理解する。</li> <li>・ 内容確認の質問 (T-F question, wh-question) により理解を深める。</li> <li>・ 聞き取った情報をシートに記入</li> <li>・ ペアワークで互いに本時の内容を紹介し合う。</li> <li>・ 黒板のキーワードを元に本時の内容をクラス全体に紹介する。</li> <li>○6人グループで自分の好きな代表チームについて紹介し合う。</li> <li>・ 各グループ代表が「好きな代表チーム」をクラス全体に紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポイントやキーワードに注意させ概要をつかませる。</li> <li>○内容について質問に自然な間で答えられる。</li> <li>○聞き取った情報をシートに記入させ、英語で発表させる。</li> <li>○原稿を見ないで紹介できるよう意識させる。聞き手はアイコンタクトや質問等の反応をするよう指導する。</li> <li>○大きい声で、クラス全体にメッセージがしっかりと伝わるように発表させる。</li> <li>○大きい声で、クラス全体にメッセージがしっかりと伝わるように発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">                     [評価] 授業後にプリントを回収し、評価する                 </div>	A  B
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時を振り返り、学んだことをコメントシートに記入し、自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALT のコメント・アドバイスを本時の活動の振り返りに活かす。</li> </ul>	

## 【授業研究会の記録】

期日	令和元年7月11日（木）	記録者	金岡和恵	授業者	石川真人先生 ピムズ・ハベル先生
<p>指導助言：英語教育推進班 草階 健樹 指導主事</p> <p>司 会：細井 泰子</p> <p>参加者：工藤 裕文、金岡 和恵、伊藤 寛大、今泉 生子</p>					
<p>1. 授業者より</p> <p><b>【石川】</b></p> <p>普段一人でやっていることをそのまま、ピムズ先生が普段やってくれていることをそのまま行い、それらを融合させた形の授業だった。生徒にも伝えていることだが、外国語は音声の中に意味があり、音声を中心に4技能を身につけなければいけないと考えている。今日の授業の展開でも、耳から理解して、理解した部分を自分でも言えるようにさせることを意識した。普段から英語で考えさせるために、単語の意味など、英英辞典にあることを生徒に練習させている。ウォーミングアップでは、前回の内容をピムズ先生と対話形式で伝え、その後、単語の発音練習を全員大きな声で行わせた。その際、アクセントや発音のポイントを伝えるようにしている。次に内容確認を TF Question や WH Question で問いかけ、生徒に考えさせてから答えさせるようにした。ある程度のインプットがないとアウトプットができないので、なるべく多くのインプットが出来るように普段から心がけている。今はまだ基本を教えている段階だが、その中で生徒には人前で話すことの大切さも教えている。まとめとして、ペアワークやグループワークも取り入れて、これまで出てきたサッカーチームについて発表させた。これはピムズ先生がいつもやってくれていることでもある。生徒が元気で助けられた。</p> <p><b>【ピムズ】</b></p> <p>クラスの中には英語が苦手な生徒もいるが、全ての生徒が授業に積極的に参加していてよかった。授業ではなるべく生徒に英語を使う機会を作りたいと思っている。教師と生徒、生徒同士のフレンドリーな関係ができていて、リラックスできる雰囲気の中で授業が行われ、生徒はレッスンだけでなく、そういった雰囲気も楽しんでいたのではないかと思う。</p>					
<p>2. 協議</p> <p><b>【今泉】</b></p> <p>楽しく授業に入りこむことができた。イントロダクションから楽しく引きつけられ、内容に移っていった。生徒がスムーズにその流れを理解して、積極的に素直に動いて発言し、一生懸命取り組んでいたことが印象的だった。ペア、グループ両活動で一人もかけることなく活動していていい光景だった。書く活動では、与えられたヒントを使わずに書こうとする生徒もいて意欲的だった。自分は黒板に書くことが多いが、そうではないスタイルも知ることができ、いい機会になった。</p>					

【工藤】

自分は3年生の授業しか持っていないのだが、今日の1年生の授業を見て原点に戻らされた。2人のコンビネーションも即興で授業を作り上げているところがすばらしかった。short temper という表現を出していたが、生徒には難しかったのでは。

【石川】

分からない単語があってもよいと考え、ジェスチャーでフォローするようにしている。普段、日本語でカバーしている部分も大きい。生徒には読む力が不足していると感じていて、レッスンが終わった後で訳も渡している。読む力を付けさせるために工夫したことは、入学したときにストップウォッチを購入してもらい、朝学の速読で読む時間を計らせている。1回読む毎にチェックさせ、何回も読むように指導している。

【工藤】

3年生だとペアワークが精一杯でなかなかグループワークまではいかない。

【石川】

最初の段階で、英語でどういう風にサマリーをするか教え、それぞれのステップをしっかり踏むことができるように指導している。第一段階として、単語レベルの指導では理屈と実際の音声の両面を指導している。そして、「次はこれ、その次はこれ」というようにパターン化することで生徒が活動しやすいようにしている。機会を見つけて、国による発音の違いも指導している。

【工藤】

「本時の目標」の字はもっと大きい方がよい。即興でオペラを引き合いに出していたのは素晴らしかった。雰囲気ととにかくよかった。

【伊藤】

生徒のモチベーションが非常に高くよかった。途中でサマリーを2人ペアで取り組ませる場面があったが、「原稿を見てもいいか」という生徒の問いに対しては「ダメ」でもよかったのでは。ハードルを少しずつ上げることで生徒の力を高めていけるのではないかと感じた。ジェスチャーやアイコンタクトも交えて非常に上手なスピーチをしていた生徒もいて、それを生徒同士で評価させてもよかったのでは。他の生徒にどこがよかったかを言わせることで次につながっていくと思う。「本時の目標」がユニフォームのスピーチをしたらいいのか、好きなサッカーチームのスピーチをしたらいいのか曖昧に感じた。ユニフォームに関する話を話させてもよかったのでは。教科書にそれ用の活動があったので、そういったものを使うと、よりアカデミックになったのではないかと思う。下調べが必要になってくると大変ではあるが、その場で書かせるとライティングは時間がかかってしまう。下調べをした上で書く力がある生徒たちなのではと感じた。人前でスピーチもできていて素晴らしかった。生徒の力に驚かされた。

【細井】

3年生はあまりアクティブにはいかないということなのだろうか。

【伊藤】

3年生になってからはなかなかできない。人前でスピーチできることなど、1年生の今の姿勢は大事にしていくべきだと思う。

【細井】

Can Do リストとの関連を見ると、今日の授業ではリスニングとスピーキングを挙げている。先生方の英語を生徒達がたくさん聞いて、その後、生徒が英語を使うという活動があつて、とてもいい授業だったと思う。グループワークにおいても一人一人がきちんと発表することができていた。時間がもう少しあれば、感想などまで繋げることができたのではないかと感じた。生徒が先生の英語をよく聞いていた。

【金岡】

いい雰囲気の中で授業が行われていた。英語を使おうと積極的な姿勢が素晴らしく、ペアワークでもグループワークでも、一人一人がよく活動できていた。素晴らしい発表が多かったので、モチベーションを高めさせるためにも、生徒同士で評価し合う時間があれば更によかったと思う。

### 3. 指導助言

【草階指導主事】

石川先生は音声指導を重視されていて素晴らしいと感じた。インプットをしっかりやってアウトプットにからめていて、これからも続けて欲しい。ピムズ先生とのコンビネーションがよかった。生徒との信頼関係も出来ていたように思う。ネタ（引き出し）がいっぱいあつて生徒も引きつけられていた。グループ活動を6人で行っていたが、少し多いと感じた。4人ぐらいがいいのでは。発表の際、準備したプリントを見ないように言ってもよかったのでは。また、書かせるときも、ヒントをいくつか挙げていたが、ヒントなしでもよかったのではないかと感じた。少しずつ足場を外し、負荷をかけることで生徒の力を伸ばすことができると思う。教科書の内容から “What country do you want to go?” “My favorite sports” “My favorite athletes” といった質問に発展させてもいいかもしれない。投げ込み教材もあると更によいと思う。ペアでもグループでも嫌がらずに取り組んでいて希望を感じた。校内で授業改善に結びつけていってほしい。

【細井】

授業改善に向けて取り組んでいることがあれば紹介して下さい。

【草階】

外の勉強会に参加したときは、みんなでシェアする体制があるとよいのでは。身近で良い授業をされる方もたくさんいるので、中でもお互い見合っていけばいいと思う。先生方が実践を発表する会もある。そういう場にも是非参加されてみては。

【細井】

ちょうど今、授業参観期間でもあり、お互いの授業を参観し合い授業力を高めることで生徒の英語力向上につなげていければと思う。

日 時 令和元年11月8日（金）2校時  
場 所 秋田西高校 第1体育館  
指導者 小 松 和 幸

1 単 元 名 B 器械運動 「ア マット運動」

- 2 単元の目標
- ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定しておこなうこと、条件を変えた技、発展技をおこなうこと、それらを構成し演技する。【技能】
  - ・技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技することに自主的に取り組めるようにする。【態度】
  - ・技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法について理解し、自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方の改善すべきポイントを見つける。【知識、思考・判断】

3 単元と生徒

- (1) 単元観
- ・器械運動は、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動で構成される。器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、できる楽しさや喜びを味わうことや、できなかったことができるようになるまでの過程に、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、できるようになった技を組み合わせることができることにも面白さがある。器械運動は、個の技能が重要になる種目ではあるが、技を成功させるためにグループやペアで活動し、自分では気付くことができない問題点や完成時の達成感を共有することができるのも器械運動の大きな魅力である。
- (2) 生徒観
- ・事前アンケートでは、「マット運動は得意な方だ」という質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が1人、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒が14人であった。この結果を踏まえ、高め合うことのできるグループを検討することが重要になる。
- (3) 指導観
- ・保健体育科では、「仲間と協力し、継続して努力することによって得られる達成感を味わえる授業」を作りたいと考えている。そこで、「学習規律の徹底」「頑張れる集団作り」を大切に授業に取り組んでいる。マット運動は、できる、できないがはっきりしている運動である。マット運動を通して、できなかったことができるようになる達成感を感じられる授業を展開したい。主に回転系の技を中心に取り組み、得意な生徒の活躍の場の設定と、苦手な生徒が達成感を味わえるような活動の設定をしていきたい。初めから教師がポイントを示すのではなく、生徒同士で成功のためのポイントを見つけ出し、工夫して練習に取り組むようにし、不得意な生徒が成功できるような環境を整えたい。そのために得意不得意に配慮したグループ作り、得意な生徒の師範、視覚教材の使用を取り入れた授業を展開したいと考えている。

4 指導と評価の計画

- 【指導計画】
- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| (1) オリエンテーション・基本技の確認 | 2時間         |
| (2) できる技の確認・新しい技の習得  | 3時間（3／8 本時） |
| (3) 技の組み合わせに挑戦       | 2時間         |
| (4) まとめ              | 1時間         |

【単元の評価基準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の技能のレベルに応じた技に挑戦し、技ができる楽しさや喜びを味わい、学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>・互いに助け合い、教え合おうとしている。</li> <li>・仲間の良い演技を讃えようとしている。</li> <li>・安全を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の技能レベル・体力の程度に応じて、一人一人がめあてを持ち、仲間とともに共有し、取り組む技や技の組合せ方を選んだり、見つけたりしている。</li> <li>・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。</li> <li>・ICTを活用し自分の課題をとらえ、練習を見直し、新しい練習法を選んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学んだ学習を踏まえて、自己の技能レベルに応じた技に挑戦し、技が滑らかに安定してできる。</li> <li>・系、技群、グループの視点を踏まえて、学習した技を組み合わせ、構成した技の組合せを一連の動きとして演技することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに学習する技を理解し、マット運動の特性や進め方、練習の仕方などについて知っている。</li> <li>・技の行い方や運動観察の方法について、理解したことを伝え合っている。</li> <li>・発表の仕方について理解していることを伝え合っている。</li> </ul>

5 本時の計画

(1) ねらい ア できる技を確認し、自己の課題を見つけて練習を工夫し、仲間と互いに教え合い、励まし合いながら練習できる。

【思考・判断】

(2) 展開

	学習活動	形態	教師の指導・支援	評価の観点
導入 5分	1. 整列、挨拶  2. 前時の復習と本時の目標と流れの確認	一斉 ↓	☆身だしなみを整えさせ、生徒の様子や健康状態を観察する。  ☆前時の活動から望ましい行動・言動について紹介しグループ活動に積極的に関わるように促す。  ☆本時の目標を示し、本時の流れを説明する。	
展開① 15分	3. 体操・準備運動  4. 既習技の練習	一斉 ↓	☆運動負荷の調整をおこない、雰囲気と意識を高める。  ☆映像の見本を見せながら安全におこなう。	
<p><b>本時の目標</b> できる技を確認し、自己の課題を見つけて練習を工夫し、仲間と互いに教え合い、励まし合いながら練習しよう。</p>				
展開② 20分	5. 自分のめあての設定をする。  6. グループに分かれて自分のめあてを伝え合う。  7. 動きのポイントや補助のポイントをグループで確認し、工夫して練習する。	一斉  グループ ↓	☆学習カードを活用し、本時の学習内容から自分のめあてを設定するように促す。  ☆学びに向かう主体的な姿勢を育むためにグループ内で伝え合う時間を設定する。  ☆できる生徒への手立て 回転力をつけるために、技の開始姿勢や終末姿勢、技をつなぐ姿勢を意識させる。  ☆倒立前転ができない場合の手立て① 手や足をつく場所にポイントとなる目印をつけ、視覚的に分かるようにする。(視覚化)  ☆倒立前転ができない場合の手立て② 倒立の止まる感覚を味わうためには、起立姿勢のように逆さ一直線を作ること、手の指先で、向こう側への勢いをコントロールすること、おしりにキュッと力を入れること等の動きのこつを具体的に分かりやすく伝える。	<b>【思考・判断】</b> ・仲間と学習する場面で、自分の技や仲間の技について指摘や助言をしている。 (観察・学習プリント)
まとめ 10分	8. 本時のまとめ  9. 整列、挨拶	グループ ↓	☆成果と課題についてグループ内で発表させる。  ☆今日の振り返りで出た成果と課題を次回からの練習に活かしていくことを確認する。	

【評価】

- A ○仲間の技の向上のためにより効果的な助言ができる。  
○仲間の助言を通して、自己の体に気付き、技の練習に活かすことができる。
- B ○仲間の技・練習について適切な助言ができる。
- C ○仲間の技・練習について適切な助言ができていない。

## 【授業研究会の記録】

期日	令和元年11月 8日（金）	記録者	河村純子	授業者	小松和幸
指導助言：萩原亨指導主事（秋田県総合教育センター）					
司 会：杉山喜幸 参加者：保坂文明教頭 佐藤浩一郎 河村純子					
<p>1. 授業者より</p> <p>テーマに沿った授業内容を心がけた。達成感や得意な生徒の活躍の場・苦手な生徒ができたときの達成感を得るための工夫を行った。教え合える雰囲気があるクラスなので、全体的に和気藹々とした雰囲気で行えた。思い通りにならず、教師側から答えを出してしまう場面もあったが深く学び合える時間になったと思う。活動時間は少なかったが、より深い学びになったと思っている。</p>					
<p>2. 協議</p> <p>【佐藤】 視聴覚教材に加え、自分の感覚と狙いとの相違点を感じさせるための手立てが工夫されていた。仲間達と教え合ったり学び合ったりできる時間があつたのがよかった。小松先生は普段から ICT を活用して授業実践されているので、見習いたい。</p> <p>【河村】 ガムテープを使って運動のコツを指導している点では効果的だったと思う。側転のみならず、頭倒立でも活用して良かったように思う。</p> <p>【杉山】 安全に配慮された準備運動が行われていた。準備運動を行うことで、やる気を出す内容だったと思う。深い思考力という点では教え合う、苦手な生徒なりにも深く学ぶ内容だったと思う。動画を活用して振り返りを行うことなど、今回の学習内容が網羅された内容であったと思う。</p> <p>【保坂】 思考判断・知識理解などを網羅された授業であった。仲間が教え合える内容で、生徒が慣れていけば、全体的に活発な話し合いができると思う。事前に準備がなされており、アドバイスなどが的確だったが、1時間の授業の中に身につけさせたい技能と思考判断力を養うとなると、もう少し余裕を持った授業を行っても良いのではないかと感じた。考えさせることに重点を置いた授業だったと思うので、コツを視覚的に明示することで気づきを与える場面があると、指導する場面でも有効だと感じた。</p>					
<p>3. 指導助言【萩原指導主事より】</p> <p>指導案が明確で頭に思い浮かべられる内容で、苦手な生徒だけではなく、できる生徒への手立てもされている。グループの中で教えあい、学びあいを行う授業だったと思う。生徒達が楽しそうにやっていた。ホワイトボードや ICT の活用がされて、ビデオで振り返りができるようにするのも、生徒の自発的な活動を促すことができた。頭倒立の場面で小松先生が「頭と手が一直線になっていいのか」という問いかけが素晴らしかった。生徒に気づかせるような問いかけがされているのがよかった。手本の動画を再生していたが、追っかけ再生を利用し、お手本と自分の映像を見比べることで、さらに意欲を持って取り組めるのではないかと感じた。本時は非常に基礎学力と深い学力とのバランスが大切、既習の内容を生徒がつなぎ合わせることで深い学びになる。単元全体を見渡し、単元の評価計画を作成して頂きたいと感じた。ベテランの先生が率先して研究授業を行ったことにも大変意義がある。</p>					

# 研 修

## 「教職5年経験者研修講座（高等学校6年目）」受講のまとめ

理科 渡部 亮太

期 日 : 令和元年 6月14日(金)・9月17日(火)

場 所 : 秋田県総合教育センター

### 1. 講座の目的

学校組織マネジメントの意識を高め、学習指導や学年経営、生徒指導等についての実践的指導力の向上を図る。

### 2. 日程と内容

期	日時	研修内容
I 期	6/14 (金) 10:00~16:15	○生徒理解と人間関係づくり (講義・演習) ○学校組織の一員として—マネジメントの視点— (講義・演習) ○生徒の実態を踏まえた授業改善① (講義・協議・演習)
II 期	9/17 (火) 10:00~16:15	○教師が使えるカウンセリングの技法 (講義・演習) ○生徒の実態を踏まえた授業改善② (講義・協議・演習)

### 3. 内容とまとめ

第I期は午前中に全体で「生徒理解と人間関係づくり」、「学校組織の一員として—マネジメントの視点—」の2題について全教科教員合同で講義、演習を行った。前半の講座では特に高等学校初年度の担任を前提としてアイスブレイクなどの生徒との初期の信頼関係をいかに築くかについてと、近年の生徒の多様性と教員の対応の仕方についての2点を考えた。その中で同じ言葉でも生徒によって受け取り方が異なり、印象が異なることを意識して言葉の選び方について2人1組で会話演習を行った。そこでは言葉のみならず生徒への表情の向け方、会話のトーン、間の取り方でも大きく印象が変わることを実感し、普段の職務にも実践できる内容であると実感した。後半の講座では教職6年目(5年目)の教員として自分中心の職務のみでなく、学校組織の一員としての自分を意識し、学校の中での役割を意識した働き方について講義を受け、自分の勤務校のキャリアプランニングとそのため育てるべき生徒の資質、教員の働きかけかたについて模造紙1枚にまとめ、これからの働き方の指針とした。本校は「豊かな心」「調和の姿」「創造の道」の三訓を主として、大学進学から公務員、民間就職まで幅広い進路志望の生徒に対して高校生活の中で人間性の完成を目指す教育方針を採っており、そのための教員の働きかけかたとして、授業なら授業、部活なら部活に向かう姿勢そのものの規範を守ること、その理由について生徒に理解させることが大事であると改めて認識した。

午後は教科ごとに分かれ、それぞれ事前に提出していた授業レポートと報告を基にして授業の改善について話し合った。理科は物・化・生・地全ての科目が合同で行われ、それぞれの勤務校も進学校から工業高校、農業高校などの実業校まで多種に渡っていた。自分は3年生物理クラスの授業について、幅広い学力・進路志望であることを意識した授業での座席の配置及び実験において座席グループごとの働きかけ方を変えることとグループごとの思考の違いについてレポートとした。(資料：Ⅰ期レポート) これについて研修では特に改善点はないとされ、進路志望が多様かつ学力幅の広い本校であるからこそ上手くできている内容であるのご意見を頂いた。また、他の先生方の報告を聞き、話し合った概要として、学校の特色に合わせた指導形式を考えることが大事であり、進学校であれば生徒が自分で考え自己学習する仕組みを、実業校であれば授業の中で基礎知識が完成するよう内容を精選し、限られた時間の中で概要を伝えられる授業内容を考えることが大事であるという結論になった。

第Ⅱ期では、午前中に教員のカウンセリング技法についての講座を受け、午後には教科ごとにⅠ期で受けた指摘についての授業改善について話し合いが行われた。午前中の講座では悩みを抱えている生徒にどう接するか、カウンセリングマインドに基づいた生徒への接し方について講座を受けた。その際に生徒の言葉をいかに引き出すかが大事であり、教員が一方的に話すような環境は作らないこと、同じことでも言葉を選ぶことで生徒が話しやすい環境を作り出せることを学び、二人一組の会話形式でその演習を行った。また、生徒の問題について担任など一人の教員が抱えるのではなく、学校組織として対応することが大事であること、そのために相談窓口がどうなっているかを把握しておくことが大事であると学んだ。本校では管理職及び保健部が窓口になっており、生徒の問題に対しては管理職・保健部に速やかに報告・相談し組織としての対応を行うことが大事である。

午後は第Ⅰ期と同様に教科ごとに分かれ、改善した授業のレポートについて協議を行った。自分は第一期において特に改善の指導がなかったため、自己課題として第Ⅰ期の座席グループを活用した実験活動における探究的思考の育成について授業実践レポートを提出し、協議を行った。(資料：Ⅱ期レポート) 協議で出た内容としては、自分の授業に対する改善はなく、それぞれのグループの思考傾向について先生方から多数の質問を頂いた。レポートにもある通り、普段理解度が低いグループでも実験となったときにはその積極性や思考の柔軟さにより正しい結果を迅速に導いた例もあり、これからの学習指導要領の変更に対して新たな教育方針の一端を感じた。他の先生方の報告では特に50分という授業時間で何を学ばせるかという点が精選されており、生徒の理解度も更に高くなっている様子が覗えた。

今年度の研修を受け、自分が学校組織に属する一員である意識がよりいっそう高まり、役割に応じた動き方が大事であることを強く意識した。また、授業について、これから更に多様になる生徒の資質、性格に応じて効果が高い授業の形式を模索していくこと、これから中心になっていく探究的思考をいかに育成していくかが大事であることが自覚できたので、これからの授業実践に生かし自分の教員としてのキャリアを積み上げていきたい。

A-22 教職5年経験者研修講座（高等学校6年目）I期レポート

学校名	秋田県立秋田西高等学校	氏名	渡部 亮太	教科	理科（物理）
<p>① 自校の生徒の実態</p> <p>本校は1クラス約35名の5クラス編成であり、2年生は文系2クラス、理系2クラス、文理混合1クラスであり、3年生は文系3クラス、理系2クラスである。理系クラスはその大半が大学・専門学校への進学を希望しており、看護学校への進学希望者から理工学系の大学進学希望者まで進路志望の幅が広いのが特徴である。学力については高校生として平均的な学力を有してはいるものの得意教科と苦手教科に大きい差がある生徒が多く、教科単位で見た時に能力の個人差は非常に大きい。特に物理においては発展的な思考能力を有する生徒もいれば基本的な四則演算につまずきがある生徒もいる。また、全体に共通して、教科書に記載されている解法を暗記することばかりにとらわれ、問題の種類が少し変わると解答できなくなる傾向があるため、公式を自ら活用して問題を解決する思考能力の育成が課題である。</p> <p>②課題別テーマ <u>Ⅰ 生徒の思考を深める授業展開についての工夫と実践上の課題</u></p> <p>本校3年生「物理」の授業において、物理室の机配置を利用した恒常的なグループ活動を展開している。本校物理室は2人ずつ向かい合う4人1組の机が3×3配列であるが、それぞれの机に学力・進路志望をもとに意図的に編成したグループで着席させている。主な目的としては同学力・同志望の生徒を集めることによりグループ内で全員が対等な話し合いを成立させるようにしている。また、中央3列に意図的に理解度の高い生徒のグループを配置しており、グループを超えて生徒がお互いに訊きあえる環境を整えている。</p> <p>物理学では一つの解を求めるときに解答への道筋が存在していることがあり、教科書では単元に応じた解のみ紹介していることが多いが、そこで生徒が理解できる範囲であえて別解も提示する。（例：水平投射の着地直前の速度について、教科書では着地直前の成分別に速度を求めベクトルを合成する方法が例示されているが、力学的エネルギー保存則でも求められることを示す）それを繰り返すことで、生徒は問いに対して教科書で例示されている他の解法も考えるようになっていく。これを第一段階とする。第二段階として複数の解法がある問題に限定して問い、個人ではなく座っている班単位で指名し、解答の際に班で相談することを認める。すると、第一段階により思考するようになった生徒は自分たちで解法を考え、時に独自性の高い解法を導き出す。その解答全てを肯定的に捉え、修正が必要なところはその後の説明で補足を加える。ここまでの段階により自分の思考で解を導くことに対し肯定的な姿勢になったところで、第三段階として班内外含めて互いに相談することを認めた問題演習を行う。解答板書も班単位の指名にすることで最終的にお互いに解答を確認しあう、分からない問題を周りに訊くなどの活動を自主的に行うようになる。その際に生徒により解法が異なることがあり、互いに自分の思考について議論しあい、互いに思考を高め合う仕掛けとなる。</p> <p>実践上の課題として、どうしても班ごとに思考の濃淡ができやすく周りに頼ってばかりの生徒が出てくるようになるため、教師側からの問いかけを定期的に行うなど全員の思考を進める手立てが必要になる。</p>					

【物理室の実際の班配置】（※生徒には班番号のみ通知）

物理室教卓

3班 工学部（建築系） 志望者グループ	2班 工学部（情報系） 志望者グループ	1班 工学部（詳細未定） 志望者グループ
6班 工学部（電子系） 志望者グループ	5班 医学部（医・医） 志望者グループ	4班 理学療法志望者のうち 理解度が高いグループ
9班 専門学校・就職 志望者グループ	8班 教育学・数学 志望者グループ	7班 理学療法志望者のうち 理解度が低いグループ

※元々の理解度の度合いは  $5 > 6 = 4 > 1 = 3 > 2 > 8 > 9 = 7$

【実際の展開例：自由落下して床で跳ね返る物体の反発係数（第二段階）】

跳ね返った後に物体が到達する最高点を求める問題について、解法が複数あることを示唆し、個人またはグループ内で考えさせる。

→ほとんどの人は「投げ上げの公式」を用いて計算していたが、「これでいいんじゃない？」と独自に考え「反発係数の公式で求めた反発後の速度を代入した力学的エネルギー保存則」を用いて計算する班が出てくる。（スタンダードな解答としては前者だが、後者の方が一足早く解を求められる）

→後者を導いた班に板書をさせ、解説を加える。その際に思考が柔軟な解答であると褒め、その後改めて通常解も説明する。

解説終了後、板書した班では「ほらやっぱり俺のでもいいじゃん！」「すごい」と声が挙がり、その後もいろいろな問題でお互いが独自に解法を探し議論するようになった。

A-22 教職5年経験者研修講座（高等学校6年目）Ⅱ期レポート

学校名	秋田県立秋田西高等学校	氏名	渡部 亮太	教科	理科（物理）
-----	-------------	----	-------	----	--------

【授業実施内容についての報告】

I期の講座では本校物理クラスについて、進路志望や学習の定着度により班を分けて授業を実施していることについて発表させて頂いた。議論では特にこの手法に関して改善点は提示されなかったが、自主課題としてグループ分けをしたことを生かせる授業法の考案を掲げ、授業の改善に取り組んだ。

改善授業の対象としたのは、運動量と力積の単元についての総まとめ研究である。この授業を対象とした主な理由は2つある。

- ① 研究はグループごとに行われるため、特色をつけて組んだグループで実施することで班ごとに異なった観点から問題解決を導くことが期待できる
- ② 班同士での意見交換を有効にすることで生徒が自ら違う観点の意見を取り入れることが期待できる

以上の効果を最大限に発揮するため、研究の際にはこちらから問題提示は行うが、どのように思考するかは必要最低限を提示するのみとした。（別紙1）グループについては以下のようにしている。（I期で提示したものと同一）

【物理室の実際の班配置】（※生徒には班番号のみ通知）

物理室教卓

3班 工学部（建築系） 志望者グループ	2班 工学部（情報系） 志望者グループ	1班 工学部（詳細未定） 志望者グループ
6班 工学部（電子系） 志望者グループ	5班 医学部（医・医） 志望者グループ	4班 理学療法志望者のうち 理解度が高いグループ
9班 専門学校・就職 志望者グループ	8班 教育学・数学 志望者グループ	7班 理学療法志望者のうち 理解度が低いグループ

※元々の理解度の度合いは  $5 > 6 = 4 > 1 = 3 > 2 > 8 > 9 = 7$

また、衝突球及びすっ飛びボールはそれぞれ1セットしかないため使用する場合は班で交代しながら使うように指示をした。

以下、裏面に授業実施中の生徒の行動や気づいたことについて記す。

・実験開始と同時におもちゃを借りに来たのは、衝突球が9班、すつとびボールが2班だった。9班は専門学校・就職志望のグループであり、ただ遊びたいだけではないかと危惧していたが、楽しそうに衝突球を扱う中でじっとその動きを観察している様子が見られた。そのときの班員から出た発言が「1個衝突したから外に1個飛び出た」。そこで2個同時、3個同時に衝突させるよう指示すると、同じ数だけ外に出たことに驚いた様子があった。その理由について問いかけてみると「2、3個分の運動エネルギーが伝わっていったから」と返答があった。物理の根幹に基づいたいい意見だったのでそれを褒めつつ、球の1つ1つにもっと着目するように指示を出すと、端以外の球について「挟まれて止まっている」ことに気づいた。挟まれてなぜ止まるのか、前後で何がおきているのかを考えるよう示唆すると、「弾性衝突での速度の入れ替わりが瞬時に2回行われた」ことに気づいた。元々あまり物理現象を理解できないこのグループの面々が実際にものを動かし、そこから一つ一つ糸を手繰るように考えていくと真実を導けたことについて驚きと新しい発見があった。彼らは数字を扱うことは苦手だが、観察眼に優れていて直感的に物事を理解することに長けていることが分かった。

・すつとびボールを借りた2班は、最初はどうも飛ばせなかったが何回か繰り返すうちにうまく飛ばせるようになった。その挙動について観察するように指示すると、一番上以外のボールは大きいスーパーボールの重さと留め具でバウンド後はほとんど跳ねていないことに気づいた。そこで彼らは一番上のボールとそれ以外のボールで反発したものと考え、バウンド後に下側のボール群がほぼ動かないことと質量の差から一番上のボールの速度が大きくなったと結論を出した。

・ものを借りずに最初から理論的な議論を展開したのが1班、3班、5班、6班だった。特に5班は助言の必要もないほどに理解度が高く、物理おもちゃの物理的機構の解明にすぐにたどり着いた。彼らの展開の速さに周りの班は少しでもその内容を知ろうと彼らのテーブルの周りに集まってきた。全ては理解できないものの着想のヒントを得た各班は5班の助言を参考にして理論をまとめている様子があった。理解度が一番高い5班をクラスの真ん中に配置した狙いがうまく機能した。また、1班は発想力に富んだ生徒が多く、9班や2班が実験の観察から気づいた内容を議論で先に導いた。また、運動量保存が日常で観察できる現象として「カーリング」を真っ先に答えたのも1班である。

・7班は最初自分たちで議論を始めることに苦慮していたので、根本である弾性衝突について考え、質量が同じもの同士の弾性衝突だとどうなるかを質問したところ、衝突球の仕組みに気づいた。その情報を同じ理学療法士志望である4班と共有し、お互いに教えあいながらレポートに取り組んでいた。

#### 【授業の感想】

レポートでも分かる通り、班の特徴がよく出る結果となった。思考の道筋は多数あることをこれからも指導していきたい。

## 「これからの運動部活動のあり方」を受講して

理科 渡部 亮太

期 日 : 令和元年 5月20日(月)

場 所 : 秋田県総合教育センター

### 研修の目標

運動部活動の望ましい在り方、運営上の留意等の理解と、危機管理についての実践力を養う。

### 受講内容

- ・運動部活動経営の実態（講義・協議）
- ・運動部活動指導・運営上の留意点（講義）
- ・運動部活動での事故防止と応急手当（講義・実習）

講師：秋田大学大学院医学系研究科 准教授 奥山 学 氏

### 受講のまとめ

午前中に行われた「運動部活動経営の実態」と「運動部指導・運営上の留意点」においては、秋田県全体での運動部の現状とこれからの指導者のあり方について講義が行われた。特に運動部においては競技が強くあることに重きが置かれ、指導者自身に競技の専門性や専門的な指導の知識があることを求められる傾向があるが、高等学校の部活動の本来の目的は心身共に健康な生徒の育成にあり、部活動の顧問には必ずしも専門性がなければならないわけではなく、部活動の中で生徒の心身をどう育成するかを考えること、そして競技においては専門性のある外部コーチの活用など地域との連携も大事であることを教わった。

また、現在の部活動は生徒にいかに関心を持たせるか、前向きに部活動に向かわせることも大事であることが強調され、大会で優勝する、全国大会に出場するなどの大きな目標ばかりを掲げるのではなく小さな達成目標（スモールステップ）を設定し生徒が活動の中で目標を達成していく喜びを体験させていくべきである。それと同時に、人間関係や部活そのものの悩みによって部活動に参加できなくなった生徒においては、顧問は真摯に話を聞き、全職員でその情報を共有し、部活顧問が一人で問題を抱えるのではなく学校組織として連携して生徒の悩みの解決に当たることが大事であり、決して部活動顧問一人が責務を負うべきものではないことを全教員が覚えておくことが大事である。

午後の講義では主に部活動中に生徒が負傷したときの初動について教わり、秋田大学医学部の学生による心肺蘇生術の実演を見た上で、心肺蘇生術の実習を行った。生徒が負傷したときの初動で大事なことは各部への連絡を分担し迅速に行うこと、生徒の様子を観察を怠らないことの2点である。また、心肺蘇生が必要なケースに関しては各校にAEDが必ず設置されているはずなのでAEDの指示に従って迅速に処置を行うこと、また、最近の心肺蘇生法では以前に行われていた人工呼吸は必ずしも必要ではなく、救急隊またはAEDの到着まで心臓部の圧迫を繰り返すだけでよいとされている。

今回の講座を受け、運動部における生徒の心身の発達を考えた一教員としての指導を考える必要があることを改めて認識し、部活動の運営に生かしていきたいと考えた。

令和元年度 講座番号 C-16

「JTE English Workshop」を受講して

教諭 工藤 裕文

期 日 : 令和元年 7月4日(木)

場 所 : 秋田県総合教育センター

#### 研修の目標

英語によるディスカッション等を通して、英語科の授業を担当する教員自身の英語運用能力の向上を図る。

#### 受講内容

- ・オリエンテーション
- ・スキルトレーニング(講義・演習)
- ・コミュニケーション・プラクティス(講義・演習)
- ・研修の振り返り

講師: 秋田県総合教育センター 指導主事 高野 望 氏

ALT ピムズ・ハベル 氏

#### 受講のまとめ

C-1研修は昨年度に続けて参加する機会を得た。小学校、中学校、高等学校の英語教員が一堂に会して、お互いに講義、演習を通して多くのことを学び、刺激を受け、そして自分自身習った内容を少しでも授業に生かすことができればと思い参加した。

この研修は本校のピムズ・ハベル先生も担当されていて受講前から興味があった。

午前は演習「スキルトレーニング」を学んだ。

1. 紹介
2. 背景
3. 教材
4. 計画
5. 活動
6. 適応/変化
7. 質疑応答/話し合いの流れで行われた。

「ボード・ゲームの活動」「絵を使った活動」「英国の学校と日本の学校の違い」についての講義、演習だった。楽しみながらも集中でき、個人、ペア・ワーク、グループ・ワークの流れで行われた。普段の授業では、ぜひ ALT とのティーム・ティーチングで取り入れてみたい内容であった。

午後は「コミュニケーション・プラクティス」を学んだ。

1. ウォーム・アップ
2. 読むこと、書くこと
3. ディスカッションの流れで行われた。

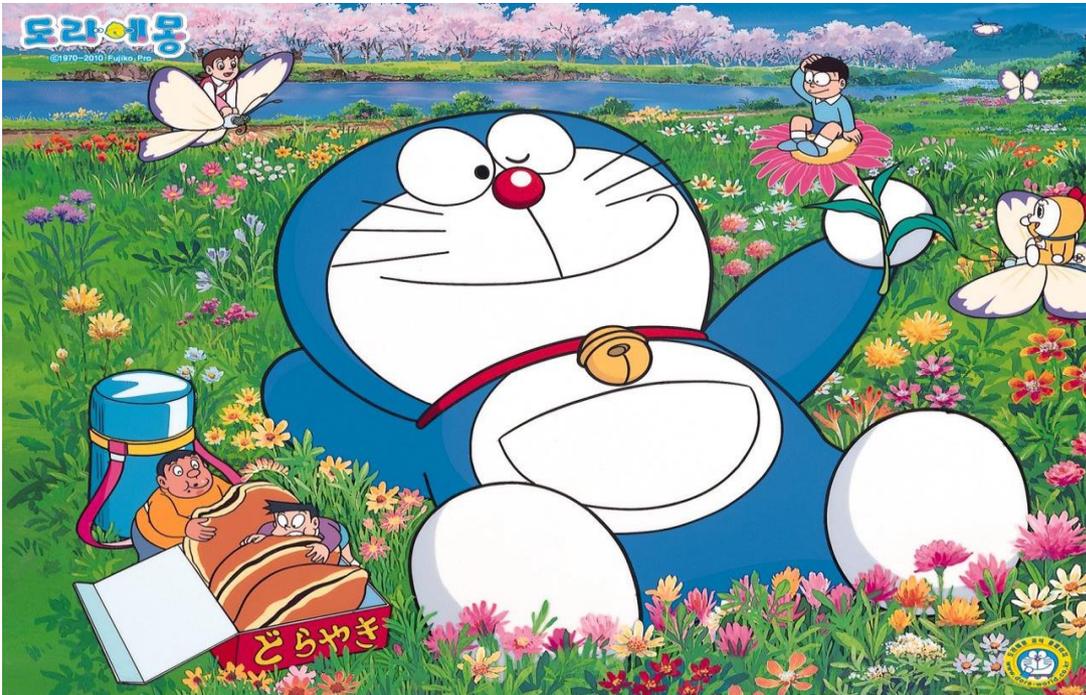
「学校をどのように改善するか」「英会話の活動」「読むこと・書くことの活動」についての講義、演習だった。学校の改善は、校則の議論まで発展した。英会話の活動では、カードやビンゴ・ゲームなどを用いてのペアの活動で教材の新たな使い方を学んだ。読むこと、書くことの活動は、ペアで物語を話し、それを書く作業でそれをグループ活動へと発展させた。ぜひティーム・ティーチングで取り入れてみたい活動だった。

最後に、時間があっという間だった。教材も映像、画像等とても工夫が凝らされていた。この研修で学んだことを生かして、より良い授業ができるように努力していきたい。





3



4

# 高大接続改革に関する研修の報告

教諭 細井 泰子 (英語)

## 1. 研修日時

令和元年8月31日(土) 河合塾仙台校アカデミア館

## 2. 研修内容

高大接続改革に関する現状と、大学入学共通テストで問われる力とその指導についての情報提供

## 3. ◆高大接続改革に関する現状

### (1) 大学入学者選抜改革の概要

①「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入試に転換

②大学入学共通テストの導入

- ・思考力、判断力、表現力を活用して解く問題を重視
- ・学習過程を意識した場面設定や、初見の資料等の題材・複数の題材(文章・資料など)を提示した問題の重視
- ・記述式の出題(数・国)や、マーク式問題に連動型の問題(連続する間に解答する際、正答の組合せが複数ある問題)を導入

③英語4技能評価の推進

- ・大学入試英語成績提供システムにより、民間の資格・検定試験(以下、英語認定試験)の成績を大学入試センターが集約・管理し、大学へ成績提供
- ・国公立大学は英語認定試験の活用が基本

④個別選抜の見直し

- ・私立大学は既存入試を継続する大学が多い

## ◆教科分科会(英語)

大学入学共通テストの導入に向けた試行調査(プレテスト・平成30年11月実施)の問題分析

### <筆記【リーディング】設問分析>

- ・語彙レベルがCEFR A1~B1レベルにコントロールされている
- ・後半の設問形式がセンター試験よりやや難
- ・平易な文章で書かれた論説文系の文章や、図表やウェブサイトからの情報の抽出に主眼
- ・センターより1000語あまり増えるなど、分量が多く、速読力が求められる
- ・情報の言いかえがカギ
- ・文法知識・概念の理解と、活用が必要

### <【リスニング】設問分析>

- ・英語の音の特徴である連結、脱落、同化などが随所に含まれている
- ・英語を母語としない話者による読み上げがある
- ・図表やグラフが積極的に取り入れられている
- ・文法知識を「聴く」能力を通じて問うている
- ・難度の高い後半で「1回読み」が行われている

## 4. 感想

今年度は英語認定試験の利用で様々な変更が発表されたが、それに対する各大学の利用方法は多岐にわたり、受験する大学によって一つ一つ確認することが不可欠である。2021年度入試に関しては、大学入試センターからの新たな公表内容に今後も十分注意し、生徒に情報提供していく必要があると感じた。

# 高大接続改革シンポジウムに関する研修の報告

教諭 伊藤 真子 (数学)

1 研修日時 令和元年 8 月 31 日 (土) 河合塾仙台校アカデミア館

## 2 報告

### ◆大学入学者選抜改革の概要

#### ①大学入学共通テスト

- ・記述式問題の導入
- ・英語のリーディングとリスニングの配点比は 1 : 1

#### ②英語 4 技能評価

- ・外部試験の活用

#### ③個別試験

- ・一般入試で主体性等を積極的に評価
- ・総合型選抜 (現 AO) の出願が 9 月以降に変更

### ◆教科分科会 (数学)

平成 30 年度試行調査 (プレテスト) の問題分析や大学入試センターの結果報告から

- ・日常や社会の事象などを題材にする問題は、現状では問題文が冗長となり、読む量が増えてしまい、かなりの時間を要するのが難点である。
- ・当てはまる選択肢を選ぶ問題では、「すべて選べ」は当面廃止となった。複数マークしたのか消したのか不明という理由で見送られた。
- ・数学 I はすべての単元から出題される。

## 3 感想

研修を受けた際は数学 I・A に記述式が導入される予定であったので、そのことに絡めた内容が多かった。最近になって記述式の導入が見送られたが、数学 I・A の試験時間が 70 分に変更されることについては決定となったので、出題傾向や受験生への負担については、これまで議論されてきたことを含め、今後も注意していきたい。毎日の学習でしっかり基本を身に付け、試験の傾向が変わっても対応できるような学力をつけるよう指導していきたい。

# 令和元年度教員研修プログラム報告書

教諭 金岡 和恵 (英語)

研修講座名・訪問校名・研修先住所等	研修日時
2019年教員研修プログラム ～入試のためのスピーキング～  河合塾 仙台校 仙台市青葉区本町2-12-12	7月28日(日) 10:50～16:40  計1日間、3時間
講師・担当者名	研修者氏名(教科名・校務分掌)
山川 修司(河合塾講師)	金岡和恵 (英語科・2年担任・教務部・図書視聴覚部)
計1名	計1名
研修のねらい	教育現場での4技能重視の流れにともなって、スピーキング能力が試される機会が増えている。受験対策としてのスピーキング指導はどのようなものであるべきか。本講座を通して、TEAP、ケンブリッジ英語検定などの有力な試験形式の特徴を確認しながら、河合塾で作成・使用のスピーキング教材およびテストや、受験指導実践例を踏まえて技能統合型指導の更なる可能性を探る。
研修内容・状況等	10:50～12:20 第1講 外部試験+河合塾の取り組み 13:20～14:50 第2講 ケンブリッジ英検、初めてのスピーキング 15:10～16:40 第3講 スピーキング+評価基準
成果と課題	近年、4技能を総合的に評価できる問題の出題(例えば記述式問題など)が広がりを見せ、「聞く」「読む」だけではなく「話す」「書く」も含めた英語の能力をバランスよく育成することが求められている。本講座では、それぞれの外部試験の特徴を確認しつつ、スピーキング指導に焦点を当て、4技能をバランス良く伸ばすための指導の在り方を学ぶことができた。講師の『今、求められていることは、いかに自分の考えを言語化できるかである。スピーキングをスピーキングだけと捉えるのではなく、他のライティング、リーディング、リスニングに繋げていくことが大事である。自分の考えを発信していくためにも、普段から様々なことに対して「自分だったらどう考えるか。」ということを用意しておくことが大事になってくる。』という言葉が印象的だった。さらに、生徒の活動や取り組みに対して適切な評価をしていくことの大切さも再認識することができた。 研修を通して得た事を現場で実践し、生徒に還元していきたい。

# 令和元年度教員研修プログラム報告書

教諭 伊藤 文人 (数学)

研修講座名・訪問校名・研修先住所等	研修日時
教員研修プログラム 大学入学共通テスト対策数学 ～思考力を養成する試み～ 河合塾 新宿校 東京都新宿区西新宿7-12-1	7月21日(日) 14:00～17:10  計1日間、3時間
講師・担当者名	研修者氏名(教科名・校務分掌)
刈谷今比古(河合塾講師)	伊藤文人 (数学科・1年担任・総務部・特別活動部)
計1名	計1名
研修のねらい	<p>試行調査から考えると、大学入学共通テストは数学的思考力に加え読解力も必要となり、センター試験よりも難易度が高くなることが予想される。河合塾が春期講習で実施した「新高2共通テスト対策数学」の結果から得点率の低かった設問についての分析結果を確認するとともに、得点を取るための指導法についてのノウハウを学び、今後の指導に活かしたい。</p>
研修内容・状況等	<p>14:00～15:30 第1部：平成30年度試行調査(数学ⅠA)の結果から            15:40～17:10 第2部：春期講習「新高2共通テスト対策数学」の結果から</p>
成果と課題	<p>大学入学共通テストでは数学的な問題解決の過程が重視され、事象の数量等に着目して数学的な問題を見出したり、目的に応じて数や式、図、グラフ、表などを活用したりする能力が問われる。また、問題の題材についても、日常の事象や数学の良さを実感できる題材や、教科書等で扱われていないが既知の数学定理や公式、知識等を活用しながら導くことができるような題材を扱うという趣旨で出題される。こうした思考力や判断力、表現力が必要となる問題と教科書の問題とのギャップを埋めていくためには、常日頃から「視覚化」を生徒に意識付けし、訓練する事が重要であるということだった。具体例としては、整数分野の存在証明問題を座標平面上の格子点に置き換えた視覚化などが挙げられる。また、問題文の長い問題に対する読解力をつけるためには、大学入試レベルの解答を読み込むことが効果的とのことだった。現1年部の数学科では模試受験後には見直しノートを提出させているが、受験後指導について解答・解説の活用法を含めて改善が必要だと感じた。</p> <p>大学共通入学テストについては、もう来年度からスタートすることが決定しているが、まだまだ分からないことも多く、対応策について手探り状態である。今後も研修等に積極的に参加し、知識や技術を身に付け、生徒に還元していきたい。</p>

## 編集後記

多くの先生方の御協力により令和元年度「研究紀要 第39号」を刊行することができました。

秋田県総合教育センターと金足農業高校と連携している本校は、今年度も校内授業研究会の際にはセンターの指導主事や金足農業高校の先生方から指導や助言をいただきました。

進路指導や教務など、他分掌と連携し、教科の枠を超えて行っている授業改善の取り組みはまだ道半ばではありますが、今後も全職員の共通理解を図りながら進めていきたいと思っています。

年度末のお忙しい中、御寄稿くださいました先生方、さまざまな形で編集に御協力くださった皆様に心から御礼申し上げます。これらの研修を今後も継続し、より一層、指導力の向上に努めたいと思います。

(研修部)

---

## 研究紀要

### 第39号

2020年3月発行

秋田県立秋田西高等学校  
秋田県潟上市天王字追分西26-1

---